

六甲山系の平成30年7月豪雨災害の状況

灘区篠原台



灘区篠原台では、住宅地背後の斜面が崩壊し、土砂や流木が水路を閉塞させ、あふれた土砂が住宅地へ流出した。

灘区六甲山町



灘区六甲山町で発生した土石流では、35年前に施工したコンクリート製の治山ダムが破壊され、10t以上もある破片が50mも飛ばされた。



神戸市だけで100箇所を超える土砂崩れが発生し、六甲山でも多数の山腹崩壊が発生した。
表六甲ドライブウェイや登山道が通行止めになっている。
(H30.8.31現在)



表六甲DW

災害前



災害後



灘区六甲山町では、昭和53年度施工の治山ダムが上流で発生した土石流の土砂を捕捉した。



六甲山系には2,000基を超える治山ダム、砂防えん堤が設置されており、土砂流出を抑止している。

六甲山系の平成30年7月豪雨災害の復旧状況

おおぞう かんづけ
神戸市北区大沢町神付

- ①当該地は平成30年7月豪雨により人家裏山で山腹崩壊が発生し、神戸市は同月6日に避難指示を発令
- ②このため県は応急工事として、倒木竹の処理、崩壊斜面の整地、大型土のうの設置を行った。(平成30年9月～11月)
- ③令和元年度から本格的な復旧工事に着手し、植生マット工、水路工、落石防止柵工事が完成(令和元年8月～令和2年3月)し、神戸市で唯一残っていた避難指示が解除された。(令和2年3月)
- ④引き続き令和2年度に、簡易法枠工、土留工を施工し、全体復旧工事を完了(令和3年3月)



①山腹崩壊発生状況(平成30年7月)



③復旧工事の状況(令和2年5月)



②応急工事の状況(平成30年11月)



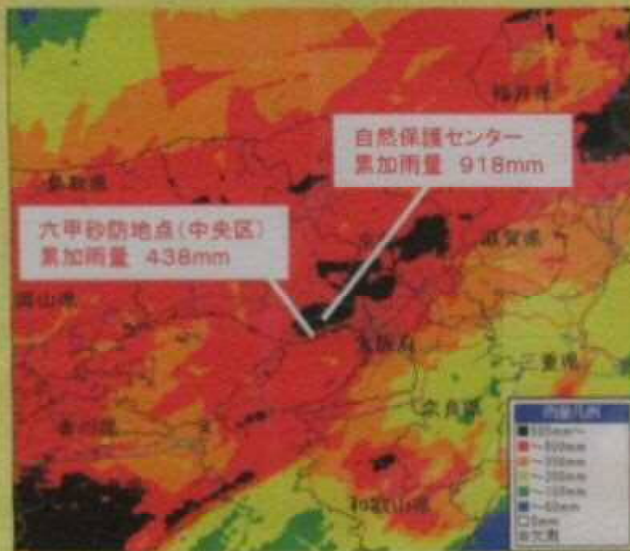
④復旧工事完了の状況(令和3年5月)

平成30年7月豪雨における六甲山地の概要

平成30年7月4日昼から8日にかけて、東日本から西日本に停滞している梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発となり、近畿全域で猛烈な雨が断続的に降り続き、六甲砂防事務所管内では自然保護センター観測所において最も多い累加雨量918ミリを記録しました。

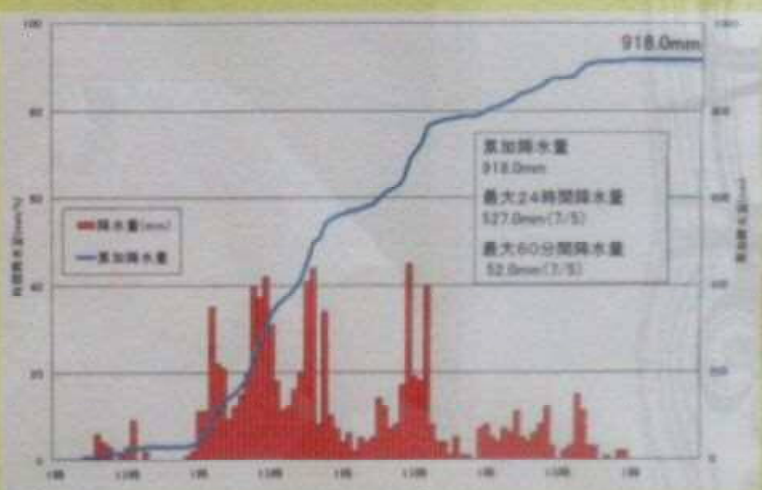
過去の災害と比較可能な宇治川観測所の累加雨量438ミリは、昭和13年(死者695名)・42年(死者98名)災害に匹敵するものとなり、斜面崩壊が発生しましたが、死者は発生しませんでした。

レーダー解析による雨量分布図



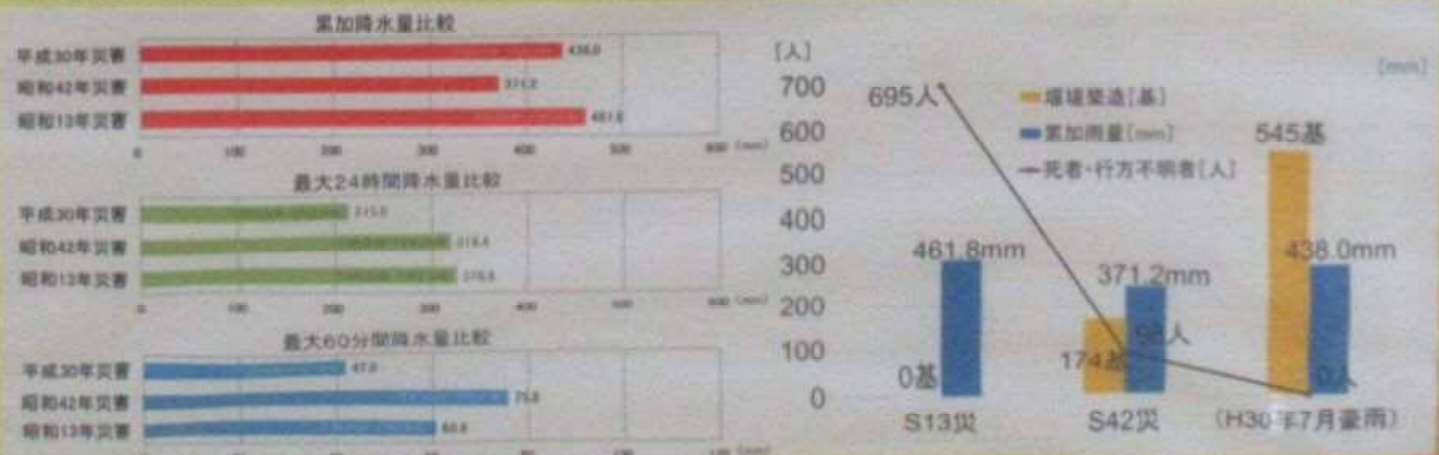
六甲山地周辺では概ね500mm以下の降水量となっていますが、南からの湿った空気が六甲山地にぶつかり、雨雲が発達した影響で山頂付近では900mmを超える雨量が観測されました。

自然保護センター雨量観測所降水量



六甲山地で最も多い降水量を観測した自然保護センターの雨量グラフです。5日深夜から6日にかけて長期間にわたり激しい雨が断続的に降り続き、累加雨量が900mmを超える大雨となりましたが、時間雨量の最大は7月6日12時の45mmに止まったことが大きな特徴です。

過去の災害との比較



平成30年7月豪雨における六甲山地の概要

被害発生状況

神戸市垂水区塩屋町（山陽電鉄被災）



神戸市垂水区塩屋町では斜面崩壊が発生し、土砂が山陽電鉄の軌道に流れ込み、電車の運休が発生しました。

神戸市灘区篠原台



神戸市灘区篠原台では土砂流が発生し、約2,600m³の土砂が住宅街に流れ込み、全壊8戸、大規模半壊2戸、半壊2戸の被害が発生しました。

砂防施設の効果

神戸市灘区六甲山町及び須磨区西須磨では砂防堰堤が崩壊した土砂や流木を補足し、下流への被害を未然に防止しました。

三の谷1号堰堤



約500m³の土砂を補足



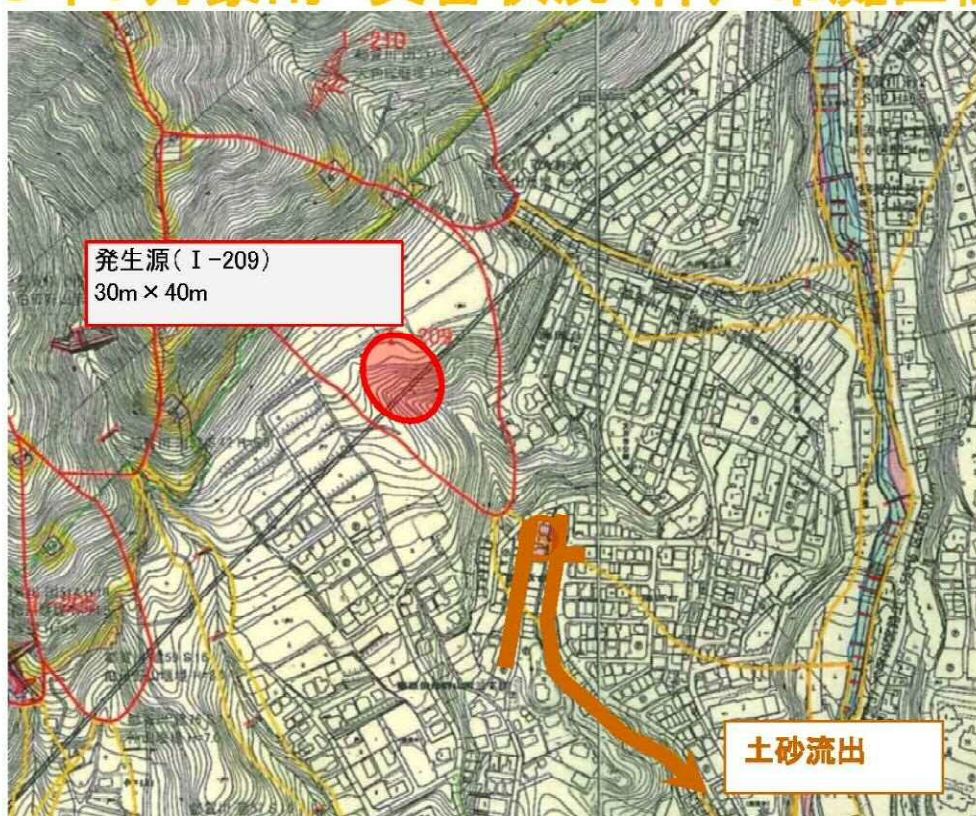
水晶谷第四堰堤



約4,600m³の土砂を補足



平成30年7月豪雨 災害状況(神戸市灘区篠原台)



平成30年7月豪雨 施設効果(水晶谷第四堰堤)

○既設の砂防堰堤が設置されていた箇所について、砂防堰堤により土砂を捕捉し、下流への被害を防いだ。

